

上智大学
社会人プログラム

S SOPHIA
PROFESSIONAL
STUDIES

2022

SOPHIA PROFESSIONAL STUDIES



上智大学
SOPHIA UNIVERSITY

Sophia — Bringing the World Together



“知”から“実践智”へ

多様なバックグラウンドを持つ

人々が集い、

創造性に溢れ、国際通用性を有する

“智”を探究する

新 たな智の獲得と展開は、社会の中での自分の立ち位置を
明確にし、役割を果たし、自らの人生を充実させる唯一無二の

常套手段です。ただ、情報は溢れていても、それを知識として解釈し、さらに現実社会で活用できる智慧、実践智に昇華させるプロセスを踏む機会は、日常に当たり前のようには存在するわけではありません。

私たちは、振れ幅の大きい不連続な変化に、頻繁に遭遇する社会の中で生きています。本来変化とは、人を、組織を、社会を成長させる発端になるべきものですから、ビジネスシーンであれ、自分自身との向き合いであれ、マルチステージを歓迎できるように自分を磨き、智を創成し続けることが重要です。目先の目標のために必要な知識を備えるのではなく、知識から智慧を創造し、智慧を展開する力の具備は、まさに自分流の「学びの循環」を創ることにほかなりません。これは、個を創成し、多様性に富んだ社会の中で信頼を獲得し、創造力を発揮する循環とも言えます。

この智の創成には、情報を解釈して知識とする力、知識を整理、統合し智慧を生み出す力が必要です。その力の醸成には、日々向かい合う仕事や人間関係だけでなく、異質の論理や題材に触れ、多様な人々との議論に加わり、主張を他者にぶつけることで自己の相対化を図る、といった鍛錬の場が有効でしょう。

上智大学では、個を磨き、オリジナリティ溢れる着想や構想で信頼を獲得することを志す方々のための学びの場「プロフェッショナル・スタディーズ」を用意しました。国際通用性と創造性の獲得をキーコンセプトに、知識を実践智へと昇華させるプロセスを、上智ならではの題材提供と議論の場でぜひご体験ください。



上智大学長 曙道 佳明

日本社会が持つ課題とグローバル社会の変革

グローバル市民・人材像の変化
グローバル×高度情報化社会の到来
個人・組織が学び続ける時代

価値・倫理が変わる時代
信念、理念が問われる時代

国際通用性

変革の時代に
社会が備えるべき“智”を再考

創造性

国際通用性を持つ教養

人間性の陶冶
多様性社会の真の理解
グローバル社会を俯瞰する視野
グローバル・ローカルの双方向視点
歴史と宗教が示唆する世界理解
国際的視点から見た日本の理解と発信
交渉力
など

創造性を発揮する教養

信念、理念、倫理の創出
価値の創造
イノベーションへの着想
課題へのアプローチ法の導出
構想とデザイン
社会展望力
論理的思考、批判的思考
など

OUTLINE

上智大学プロフェッショナル・スタディーズとは

「上智大学プロフェッショナル・スタディーズ」は、実業界と本学が一体となって産学協働の学びの場を創成する新たな試みです。プログラムは、国際通用性と創造性を高める「教養講座」、交渉学、国際会計など、専門性を磨く「スペシャリスト養成講座」、各分野の専門家や著名人により社会展望力を醸成する「スペシャルトーク」という3本の軸で展開します。本学の教員、名誉教授を中心に各講座のコーディネーションを行い、学内外からの講師陣を配置。ビジネススキルの向上とは一線を画し、また単なる学術的な講義の提供でもない、新たな学びの場として、新しい社会、ビジネスの創造に向けた革新的な着想を引き出す工夫を加えた講座を展開します。

教養講座

1講座全6回 | 各回90分

上智大学ならではの社会の切り取り方で、多様性のある国際社会において信頼を獲得し、同時にイノベーションへの着想や新しい価値の創造を導く6種の講座群を配置。

講座群

- ▶ 人間の本质と倫理、哲学
- ▶ 歴史、宗教に学ぶ世界の俯瞰
- ▶ グローバルな視野とローカルの視点
- ▶ 良質な社会に向けた責任とアクション
- ▶ 科学から読み解く社会像
- ▶ 交渉のための論理と批判

スペシャリスト 養成講座

1講座全8回 | 各回90分

国際性、社会貢献、コミュニケーション力といった上智大学の強みを反映させ、現代社会の課題に対して、一定の水準に到達できる専門性の高い講座を配置。

教養講座、スペシャリスト養成講座は、春学期・秋学期に分け、平日15:30～17:00、18:30～20:00、土曜日の日中に開講します。
※ 一部講座は、これらの時間区分によらず開講する場合があります。詳細はWebサイトにてご確認ください。

MEMBERS

会員区分について

上智大学プロフェッショナル・スタディーズは、実業界と本学が一体となって産学協働で学びの場を創生する、従来とは全く異なるかたちの産学連携プロジェクトです。会員区分はアドバイザーパートナー企業会員とスタンダード企業会員の2種があり、会員区分により特典(受講料など)が異なります。また、企業会員のみならず、各講座ごとに受講料をお支払いいただくことで、個人の方のご受講も可能です(個人会員)。

アドバイザーパートナー

現在20社の企業にアドバイザーパートナーとして、ご参画をいただいております。アドバイザーパートナー企業の皆様には連絡協議会への参加を通じ、講座への企業側からのニーズやビジネスの最前線で求められる国際通用性などについてご意見を頂くなど、本プログラムの構築にご協力をいただいております。 ※ 企業一覧はうら表紙

スペシャルトーク

年間6回開催予定

開催内容はWebサイトにて随時公表
混迷を続ける社会のグローバル化に焦点を当て、グローバル経済の動向、国際関係の行方、グローバルリスクなどの喫緊の課題を取り上げ、各分野の専門家や著名人を招き紐解きます。



■ 参画・受講会員区分

① アドバイザリーパートナー企業会員

② スタンダード企業会員

※アドバイザリーパートナー・スタンダード企業会員特典については、プロフェッショナル・スタディーズ事務局までお問合せください。

③ 個人会員

■ 参画・受講申込方法

① アドバイザリーパートナー企業会員

② スタンダード企業会員

として参画を希望される場合

→プロフェッショナル・スタディーズ事務局

TEL: 03-3238-3552

E-MAIL: prostudies-co@sophia.ac.jp

までご連絡ください。

③ 個人会員として受講を希望される場合

→プロフェッショナル・スタディーズのWebサイトより申込を受け付けます。申込方法や開講スケジュール、受講料等、詳細はWebサイトにてご確認ください。

■ 参画・受講料

① アドバイザリーパートナー企業会員

メンバーシップ料: 500万円 / 2年(税込)

② スタンダード企業会員

メンバーシップ料: 100万円 / 2年(税込)

③ 個人会員

・教養講座

1講座: 10万円(税込)

・スペシャリスト養成講座

1講座: 15万円(税込)

・スペシャルトーク

※Webサイトにてご確認ください。

2022年度 講座紹介

教養講座32講座、スペシャリスト養成講座5講座、合計37講座を開講予定

教養講座

人間の本質と倫理、哲学

講座番号1111 人間学：環境問題から考える“生きる意味”

私たち人間は、常に“生きる意味は何か”、“人間とは何か”と問い続け、自分自身を求めています。その一方で、個人主義社会の何かに急かされながら現実を生きています。宇宙旅行が現実になったこの世界で、いまだ社会の格差問題や貧困問題を解決することはできません。環境問題やコロナ禍といった地球規模の問題に直面し、SDGsや持続可能な社会というコンセプトをまえに、多くの人々が自分自身の持続可能性に不安を抱きはじめています。私たちは、いかに自身のうちに持続可能な心の平安を見出すことができるでしょうか。本講座では、自然環境や社会環境など、現実には生きる環境のうえにあらわれる諸問題をもとに、現代社会の生き辛さの構造を理解します。そして、上智のアイデンティティであるキリスト教ヒューマニズムを手がかりにしながら、超越的な次元や「究極環境」も視野に入れ、“生きる意味”に学際的にアプローチしていきます。それぞれが“人間である唯一無二の私”と新たな角度で出会えることを願っています。

開講のねらい

超越的な次元をふまえて環境問題を本質的に眺めると、人間の“内なる環境”が映し出されます。自身に内在する本質を問い、再び、外在する社会や環境に関わる時、新たな意味や価値を創造しうることをねらいとします。

担当コーディネーター

基盤教育センター 准教授
吉川 まみ

講座番号1211 アフリカの智に学ぶ

～サハラ以南アフリカの慣習や文化から～

日本からは縁遠く思えるアフリカ。しかしその暮らしや伝統や文化・芸術から、私たちの考え方・生き方を見直すきっかけや、アフリカでのビジネスをより円滑に進めるヒントが得られることもあります。そのような関心から本講座では西アフリカ(フランス語圏)を主たる対象地域とし、民話に見られる人間観、世界観を学び(永井)、フランスの映画制作者、作家、日本の文化人類学者のフィールド研究における一人称的アプローチの可能性を探り(千葉)、ベナンの絵本作家・挿絵画家の作品と語りから、その人生を切り拓く姿勢を学びます(村田)。また、音楽や文学の表現からアフリカの思想や観智にも迫り、アフリカの人々を取り巻く環境の理解にどのように生かされるか、その意義や展望を考えます。

開講のねらい

紛争や飢餓などネガティブなイメージが持たれやすいアフリカ。しかし本講座では地域の課題だけでなく、風習や芸術を通して、植民地時代以前から育まれてきた世界観や人間観の豊かさ、感じていただきたいと思います。

担当コーディネーター

文学部 フランス文学科 教授 グローバル教育センター 講師
永井 敦子 山崎 瑛莉

講座番号1212 身体知の実践

～ソマティックな人間観に依拠して～

身体をテーマ化することの現代的意義について、現代社会論の文脈で議論することから本講座はスタートします。現代社会やマスメディアを席巻する身体をめぐる様々な社会現象がどのような問題性を孕み、その結果どのような身体観を人々にもたらすのかを探ることでその特性を捉えます。社会的に築かれた現代的身体観こそが、その延長としての世界構築の枠組となり、それが科学技術優先主義や経済合理性によって牽引されて今日に至るのです。この文明化の過程では機械的合理性がもてはやされ、一方でないがしろにされてきたのは「身体知」「身体性」や「内なる身体(ソーマ)」への配慮です。多様な職業的背景をもった講師陣は、それぞれ固有の身体性やソマティックなワークを実践しています。参加者全員が体験する参加型の講座を通して、身体知の存在を肌で感じ、理解し、その感覚経験がより良き世界の構築にどのように活かせるのかを学ぶことになります。混迷する時代であることが、かえって本講座の存在意義となるのです。

開講のねらい

体験・体感の多様なボディワークを通じて、「教養」とは知の蓄積ではなく、この私が、世界を感じ取るセンサーとしての身体(SOMA)を駆使して生きていることだと実感する講座です。

担当コーディネーター

基盤教育センター 教授
鈴木 守

講座番号1213 SDGsとグローバル化の哲学

新型コロナウイルス下の世界は、グローバル化や持続可能性への対応がいまや待たなしの課題であることを示しました。日本政府の「第6期科学技術・イノベーション基本計画」でも、哲学など人文学の知見を基盤として、「直面する脅威に対し、持続可能性と強靱性を備え、国民の安全と安心を確保するとともに、一人ひとりが多様な幸せ(well-being)を実現できる社会」を目指す、とうたわれています。個人も社会も、対症療法的なリスクヘッジにとどまらず、より人間的な目的を実現する視点が必要とされているのです。この講座では「一人ひとりのwell-being」を考えながら、グローバル化に関わるSDGs(持続可能な開発目標)の諸項目について、あらためてその内容を検討したいと思います。いくつかの具体的な目標に関しては、識者(予定)を招いて、質疑応答を交えつつ一緒に考えます。オンライン講義を取り入れる可能性もありますが、できるかぎり対面授業として、さまざまな意見交換を行う予定です。

開講のねらい

いまや国連も各企業も取り組みを重視するSDGsですが、その中核は「平和、平等、公正、幸福、福祉」などの哲学的理念です。日本政府もイノベーションの基盤に「well-being」を掲げて、人文的思考の重要性を強調しています。グローバル化する世界に示されたSDGsの理念と目標について、識者とともに考えましょう。

担当コーディネーター

名誉教授
大橋 容一郎

人間の本質と 倫理、哲学

歴史、 宗教に学ぶ 世界の俯瞰

講座番号 1214 仕事に生かす哲学的対話

—深く豊かな思考のために—

哲学は古くからある学問分野ですが、大学の研究室や教室に閉じ込めておくのはおかしなことです。というのも、哲学とはもともと学問分野ではなく、「知を愛し求めること＝philosophia」であり、人間と人間を取り巻く世界に知的な好奇心を持つ人なら、誰でも取り組むことのできる知的活動だからです。18世紀の大哲学者イマヌエル・カントが「世界概念の哲学」を「学校概念の哲学」から区別し、前者が本来の哲学だと論じたことが、それをよく表しています。哲学的思考の対象となる問は、私たちの生活・人生＝lifeのそこかしこに潜んでいます。もちろん、私たちの仕事の場にも。そうした問いを拾い上げ、対話を通して一緒に考えてみませんか。それは楽しいだけでなく、仕事の場に出会う様々な問題を解決するのに役立つ、深く豊かな思考を育むことにもなります。対話の後で、考え続けるヒントを過去の哲学者の言葉の中から紹介します。

開講のねらい

この講座では、日常に潜む様々な問いを対話を通じて哲学的に考える経験を提供します。対話的・哲学的な思考の「構え」をつくることによって、日々の仕事で遭遇する問題を解決する際の思考を深く豊かにすることを目指します。

担当コーディネーター

文学部 哲学科 教授

寺田 俊郎

講座番号 1121 伝統文化から見た日本

日本の伝統文化といわれて何を思い浮かべるでしょうか？ コロナウィルスとの戦いでもあった東京オリンピックの最中に、「日本のお家芸である柔道」というようなフレーズをたびたび耳にされたことと思います。確かに柔道のような武道文化は日本古来の伝統文化と考えてよいものです。それでは、その武道文化の形成はどこにルーツをもち、どのような過程を経て出来上がったものなのでしょうか。この講座では、日本の伝統文化とされるものの中から、表象文化・食文化・身体文化・文芸に属するものとして、絵画作品（南画）・煎茶・武道（武道伝書）・古典文学作品を取り上げながら、そのルーツや展開の過程などを一緒に考えていきたいと思います。

開講のねらい

日本古来の文化について、美術や食文化、古典的な文献を題材として検討しながら、その本質に迫っていききたいと思います。

担当コーディネーター

文学部 国文学科 教授

長尾 直茂

講座番号 1122 グローバル・ヒストリーズ： 世界のつながりを紐解く歴史観

現在でもグローバルに蔓延し多くの被害を出しているコロナ・ウィルスに代表されるように、19世紀以降、帝国や地域のボーダーを越えて移動し、ローカルの文化・社会・思想等に大きな影響を与える事象が多々存在しています。本講義では、近年歴史学の分野で注目されているグローバル・ヒストリーの視点をを用いて、国境を越えて移動するモノ・ヒト・主義・思想などを対象とし、世界との「つながり」を過去に遡って明らかにしていきます。この歴史学的探求は、単に過去を理解することではなく、私たちが生きる現代との「つながり」を見いだすプロセスでもあります。今回は、ヨーロッパ、アフリカ、北米、アジア、太平洋地域などを舞台とし、それぞれの地域の専門家が移民、食、ジェンダー、衣食等のテーマを取り上げ、グローバルな視点から歴史をみていきます。そして、その視点を現代社会の課題にアプローチするにあたってどのように応用できるかについて、皆さんと一緒に考えていきたいと思います。

開講のねらい

一国家や一地域の枠組みを越えた視点から歴史を考察することで、私たちの住む世界に新たな理解を構築することを目指します。すぐに社会に役立つ知識の提供とはいきませんが、知識の「深化」が達成できれば幸いです。

担当コーディネーター

外国語学部 英語学科 教授

飯島 真里子

講座番号 1221 世界最小国バチカンから世界最大級の影響力を読み解く

～教皇庁の歴史と外交から～

世界最小国家バチカンの国際的役割について、日本においてバチカンをも最もよく知る講師陣を迎えて考察する。歴代教皇の役割、現代国際政治においてなぜバチカンが影響力を持ちうるのか。また、教皇を頂点とするカトリック教会と現代世界についても考える。昨年の講義では、2019年の教皇来日以後高まりを見せる教皇フランシスコの役割や、現代史政治史上の役割、とくにアメリカ大統領選挙におよぼす米国カトリックの影響などをみた。

開講のねらい

バチカン市国という世界最小国家の世界情勢への影響力について、そのトップであるローマ教皇の国家元首であり世界12億の信徒を抱えるカトリック教会の指導者としての立場から読み解くため、現在日本において最もバチカン情勢に通じている講師陣とともに考える。

担当コーディネーター

文学部 史学科 教授

川村 信三

歴史、
宗教に学ぶ
世界の俯瞰

グローバルな
視野と
ローカルの視点

講座番号 1222 グローバル組織が直面する文化摩擦とその克服

～ローマ・カトリック教会の世界伝道の試行錯誤に学ぶ～

長い歴史を経て、今も存続しているどんな大組織も最初の姿のままで今に至っているわけではないでしょう。たくさんの挑戦や難題に直面して、自己変革や適応を経て今の姿になっていると思います。2千年の歴史を持つローマ・カトリック教会もその例にもれず、1世紀から現代に至るまで世界のすみずみまで出かけていきましたが、現地の文化と摩擦を引き起こしたり、政治に巻き込まれたり、内部分裂の危機も味わい、困難だらけの歴史でした。初期のギリシャ世界、ベルシャ、インド、中国、南米、日本などでの伝道の苦勞の多いものでした。しかし、今なお、根本のアイデンティティを中核として維持し、世界のすみずみで存在する世界宗教として続き、信徒数も増えています。本講座では、教会や宣教師が出会った困難やそれへの対処の工夫の歴史を見つめることにより、種々の分野でグローバルに活躍する方々に発展的な学びが得られるようにと願っています。

開講のねらい

キリスト教が世界宗教になったのは、宣教師たちが危険をかえりみず、どこにでも出向き、押しつけでなく、相手を深く理解しようとしたからです。そのいきいきとした具体的努力を一緒に見ていきたいと思います。

担当コーディネーター

名誉教授

山岡 三治

講座番号 1223 日本で暮らす東南アジアの人々：

共生の道筋を考える

2021年6月末現在、日本で暮らす中長期在留外国人は282万3565人（特別永住者30万441人を含む）です。外国から来た人々が増えつつあることは日常生活のなかで感じることができます。政府は移民受け入れには消極的ですが、日本の現状は海外から見ればすでに「移民大国」であると映ります。この講座では、日本で暮らす外国人の人々、とくに東南アジアのベトナム、ミャンマー（ビルマ）、フィリピン、インドネシアなどから来日した人々を中心に、来日の背景、経緯、出入国管理、難民等の受け入れ、さらに最近とくに社会問題化している外国人技能実習制度などをとりあげます。一口に在留外国人といってもその背景は多様です。日本社会でアジア出身の人びとの共生は可能なのか、そのためにはどのような問題、制度的な課題を乗り越える必要があるのかを、当事者、関係者の体験、提言に耳を傾けながら考えます。

開講のねらい

グローバル化の時代、国境を越える人の移動は今後ますます活発になっていくでしょう。異なる社会・文化背景を持ち、海外から日本に移り住んできた人々との共生の道を考えてみたいと思います。

担当コーディネーター

名誉教授

寺田 勇文

講座番号 1131 イスラームをどう理解するか？

ー原理・原則と多様性を考える

今日、世界のムスリム（イスラーム教徒）人口は15億人ともいわれ、日本にも東南アジア出身者を中心に20万人以上のムスリムが生活しています。ムスリムはイスラーム誕生の地、中東だけでなく、東南アジアやアフリカでは多数派を占める国は多く、欧米でもムスリム人口が数百万人にのぼる国が少なくありません。しかしイスラーム程、わかりにくい宗教（思想）はないかもしれません。その一つの理由は原理原則（理念）と現実論との間の乖離です。この乖離と多様性の現実を理解することがイスラームを理解することにつながるのではないのでしょうか。本講座ではこのような視点に立って、イスラームの歴史と思想を概観した後、イスラームと社会生活、イスラームと政治、イスラームと経済の三つの側面から原理原則と多様性がどのような関係にあるのか、考えていきます。その上で実際にイスラームの理念が、現実の社会生活、政治体制や経済制度の中に適用されている実態について、マレーシアと日本のイスラームの事例をとりあげて議論をしたいと思います。

開講のねらい

日本の高校生の「イスラーム・イメージ」の調査結果は、厳格な教義、不寛容、奇妙な習慣、不自由、攻撃的、不可解というものが目立ちました。本講座のねらいは、このステレオタイプのイメージの問題点と、その修正の必要性を考えることです。

担当コーディネーター

名誉教授

私市 正年

講座番号 1132 21世紀における「グローカリズム」と持続可能性：

日本列島におけるレジリエンス及びダイナミックな順応的管理の可能性を探る

日本の地域イニシアチブは世界の持続可能性にどのような貢献をできるでしょうか。本講義では日本に注目します。日本人に日本を語ってもらうのではなく、本講義ではあえて日本の大学に拠点を置く外国人の専門家にその経験や見解を共有してもらいます。「日本」の専門家として国内外で活躍する講師陣は、国内のみならず国際的な視点も示すことができます。多様な視点の共有により、参加者の間で活発な議論が促されることを期待します。

開講のねらい

日本の地域イニシアチブは世界の持続可能性にどのような貢献をできるでしょうか。本講義では日本に注目します。国内のみならず国際的な視点も示すことができます。多様な視点の共有により、活発な議論が促されることを期待します。

担当コーディネーター

地球環境学研究科 地球環境学専攻 教授

まくだなると あん

グローバルな 視野と ローカルの視点

1231 越境する日本文学と美術

日本文化の根元が伝統文化と外来文化との双方から養われているという特徴があり、特に近・現代の日本文学や美術に越境性が満ちた作品が溢れています。海外からの要素を取り入れると同時に、日本の特色も海外へ影響を与え、その双方向の刺激による創作過程で新たな複合性をもつ近・現代の日本文学・美術が生まれました。本講座では、1945年以降、越境性の高い文学・美術作品に焦点を合わせて、なぜ世界的に読まれたか・鑑賞されたかを考察し、日本文化の複合性・ハイブリッド性を評価し、日本と世界との境界線をぼやかしながら、その接点を探求します。

開講のねらい

「世界とのつながり」は開講のねらいです。人類は原初から絵を描き、物語を作ります。美術と文学は人類共通の「言葉」です。日本文学、映画、美術の趣きを探求し、海外の友達と「世界のHOKUSAI, KAWABATA, ŌE KENZABURO, KUROSAWA」などについて歓談してみませんか？

担当コーディネーター

国際教養学部 国際教養学科 教授
ユー・アンジェラ

1232 アフリカのいまを知る

～ステレオタイプを越えて～

21世紀に入って以来、サハラ以南のアフリカに対する認識はいくらか変わってはきているかもしれませんが。従来から存在した貧困や感染症、政治的不安定の問題は、世界全体の問題としてとらえられるようになり、援助のあり方もドナー側の一方的な「上から目線」のアプローチは見直されてきています。また、資源等を原動力とする経済成長や、世界に残された最後の巨大市場といった可能性に注目が集まり、アフリカの肯定的な側面がクローズアップされてきました。こうした傾向は、従来からの画一的なアフリカ認識を覆す意味では望ましいものといえるでしょう。しかしながら、上述の様々な問題が具体的にどのようなかたちで、どの程度の規模で生じており、それがどのように世界と結びついているのか、実感の持てない人も少なくないと思います。そこで本講座では、独立後の現代史、政治、経済、保健医療、環境といった分野ごとに、こんにちのアフリカの具体的な状況と課題を明らかにしていきます。

開講のねらい

アフリカは貧困、混乱といった従来の顔の合間に、発展や安定といった新たな顔をのぞかせています。変容の過渡期なのか、分極化の予兆なのか、コインの裏表なのか。それは私たちとどう関わってくるのでしょうか。

担当コーディネーター

外国語学部 ポルトガル語学科 教授
矢澤 達宏

1233 グローバルリスクと戦略的コミュニケーション

グローバル化の進展は企業に様々な機会とリスクをもたらし、新たな戦略的コミュニケーションのニーズを生み出しています。政治や経済領域における国際摩擦や世界情勢の多極化、価値観の多様化がもたらす多種多様なリスクを戦略的なコミュニケーションによって早期に察知・分析し対応することは、国際社会で信頼される組織としての地位を確立し維持する上でも不可欠です。適切なタイミングや内容で行われるコミュニケーションは組織を、時には人命や社会を救うことにも繋がりますが、その失敗は大きな損失をもたらしかねません。国際的なルール変更といったリスクについても、オピニオンリーダーや社会とのコミュニケーションが重視されています。本講座では、欧米を中心に発展したリスクや危機・クライシスに対する戦略的コミュニケーションの理論や歴史に基づき、過去や現在の事例について議論をすることで、グローバルリスクへの向き合い方について考えます。

開講のねらい

「日本人はコミュニケーションが下手だ」と指摘されてきましたが、グローバル化に伴い複雑化するリスクに対応する上で求められる戦略的なコミュニケーションとは何でしょうか。理論と事例を通して考察していきます。

担当コーディネーター

文学部 新聞学科 准教授
国枝 智樹

1234 海と安全保障

国際社会の動きは激しく、今日、日本の安全保障についてもあらためて考えなければならない状況になっています。日本は、いまでもなく四方を海に囲まれており、周辺国、とりわけ中国の海洋進出は大きな脅威にもなっています。また、ロシアとの関係も予測がつきません。一方、海は、軍艦や船舶航行だけでなく、漁業資源、エネルギー、環境にとつての海と様々な顔を持っています。これらは日本の経済、人々の暮らしそのものを支えていて、大きな意味での安全保障の問題ともいえるでしょう。全6回の講義では、日本を中心とする海洋問題とその現状、解決策を、国際政治の視点、国際法の視点、また国際交渉の現場の視点から俯瞰していきます。政治・交渉の場合は、法を作り出し、今度はその法を政治が統御します。そうした相互作用についても知見を得られることと思います。

開講のねらい

船舶航行の海、エネルギー・資源の海、環境にとつての海と様々な顔を持つ海は、日本の経済、人々の暮らしそのものを支える安全保障の問題でもあります。本講義では、日本をとりまく海洋問題を国際法や国際政治など、さまざまな視点から俯瞰していきます。

担当コーディネーター

総合グローバル学部 総合グローバル学科 教授
都留 康子

良質な
社会に向けた
責任とアクション

担当コーディネーター

特任教授

西口 尚宏

1141 SDGsとイノベーション

～ SDGsをイノベーションを興しながら達成する日本企業向けの実践方法～

SDGsの達成期限まで8年。しかし、いまだSDGsを経営戦略に組み込み、経営者がSDGs達成にコミットし、国連機関などと連携して具体的にSDGsビジネスを実現できている日本企業は少ないのではないのでしょうか？2013年から日本企業のイノベーションを加速支援してきたJapan Innovation Networkは、2016年に国連開発計画(UNDP)と共同で、日本企業の技術とノウハウを活かし、ビジネスを通じてSDGsの達成をめざす、SDGs Holistic Innovation Platform (SHIP)を設立しました。その実績から、SDGs達成をめざしたイノベーションの興し方、SDGsを経営戦略に組み込んでいる国分グループの事例、UNDPと日本企業の連携事例、またSDGs達成を企業の意思決定に組み込むための「SDGインパクト基準」について学びます。また講座の最後にはワークショップ形式で、参加者の企業・団体におけるSDGs達成に向けた活動の自己評価を行い、今後に向けた行動計画を立てます。

開講のねらい

SDGsをイノベーションの機会として捉える考えと行動は現在のビジネスパーソンに必須のスキルです。SDGs×イノベーション活動を2016年から進めてきたパイオニアチームが多面的な学びの機会を提供します。

担当コーディネーター

総合人間科学部 心理学科 教授

横山 恭子

1142 病とともに「生きる」を支える

生涯で「がん」に罹患する確率は、男性62%、女性47%といわれています。また、生涯で「がん」で死亡する確率は、男性25%、女性15%となっています。がんはすっかり身近な病気となりました。その「がん」の治療の進歩は目覚ましく、不治の病から慢性疾患への位置づけを変えてきています。自身が、あるいは家族ががんを抱えて生きることになった時に、どうしたら社会参加への障壁を低くすることができるでしょうか。また、家族の病気をどのように子どもに説明すれば良いでしょうか。さらに子どもががんにかかった場合の教育も大変重要な問題だと思います。加えて、成長期の子どものがんの治療を受けてその後の長い人生を生きる時、晚期合併症と言われる問題が生じることも明らかになってきました。この講義では、そのようながんの治療に取り組む大人や子どもとその家族の問題について、一緒に考えてみたいと思います。第一線のビジネスマンにとって、今一度ご自身や家族や家庭を振り返り、正面から向き合う機会にもなることでしょう。またがんを抱えて一緒に生きる仲間たちが生きやすい社会について考えるきっかけといただければ幸いです。

開講のねらい

がんは慢性疾患と言われるようになり、すっかり身近な病気となりました。自身が、あるいは家族や仲間ががんとともに生きることになった時に、私たちにできることを考えることを通して、社会のあり方についても考えてみませんか？

担当コーディネーター

総合人間科学部 心理学科 教授

久田 満

1143 プロカウンセラーと学ぶ傾聴力

一部下のため、部署のため、そして会社全体のために

「あなたは上司として日頃、部下とうまくコミュニケーションを取っていますか？」と尋ねると、多くの管理職は「はい」と答えるかもしれません。しかし、部下はどう思っているのでしょうか？「私の上司は私のことをよく理解してくれている」と感じている部下は少数ではないでしょうか。この講座は企業の管理職(ないしその候補者)を対象として、部下の「心の声」を聴ける能力、すなわち傾聴力を身につけることを目的としています。教科書は使いませんし、講師の解説も最小限に留めます。ただひたすらスキルを磨きます。ロールプレイを中心として、毎回、全受講者の前で実演して頂きます。言語的コミュニケーションだけではなく、「沈黙」といった非言語的コミュニケーションにも注目して下さい。なぜなら非言語的コミュニケーションの方が真実を語っていることが多いからです。傾聴力は部下の信頼を得るための有効な能力です。その傾聴力であなたの管理下の部署を、そして会社全体を変革していくって欲しいと思います。

開講のねらい

聴く力に焦点を絞り、それを学びます。管理職にとって部下の「心の声」をしっかり受け止めることがとても大切だからです。講義や書籍からではなく、実技を通して体験的に身につけることが目標です。

担当コーディネーター

法学部 地球環境法学科 教授

三浦 まり

1241 教養としてのジェンダー：

国際潮流から考える「ビジネスとジェンダー」

日本の男女格差(ジェンダー・ギャップ)は国際的に大きいこともあり、官民あげてジェンダー平等に向けての取り組みが進んでいます。ダイバーシティ&インクルージョンを推進する企業も増えてきました。本講座はジェンダーに関心のある方を対象に、なぜジェンダー平等が必要なのか、どのように進めるのかに関する基本的な事項を押さえていきます。そして、SDGsの枠組みの中で世界はどのような女性のエンパワメントを目指しているのか、なぜ企業広告をはじめジェンダーの観点から炎上してしまうのか、企業の常識と世間の常識はどう違うのかを探っていきます。さらに、韓国の映画や小説を題材に女性活躍において共通点の多い韓国と日本を比較していきます。最後は女性リーダーの育てかたについて参加者と議論をします。

開講のねらい

女性活躍やD&Iに取り組んでいる方、女性の方で管理職を目指している方、あるいは目指すべきか確信が持てない方を対象に、ジェンダー平等を進める意義と効果的な取り組みについて理解を深めます。

良質な 社会に向けた 責任とアクション

講座 番号1242 偏見と差別の心理学

～共生社会の実現を目指して

いつになってもこの世から偏見や差別がなくなりません。それどころか、ヘイトスピーチやネット上での誹謗中傷、さらには暴動や殺人に至るまで、偏見や差別が元となって起こる悲惨な現象はむしろ増加傾向にあるように思われます。なぜ人は、自分達とは異なる他者(障がい者、LGBTQ、他民族、外国人など)を差別し排除しようとするのでしょうか? この講座では、心理学的視点に立ち、主として障がい者を例にして、偏見や差別がどのようなメカニズムで形成されるのかを理解することを目的としています。そのうえで、これまでに試みられてきた様々な差別の解消法について検討します。私達は誰もがいつかは障がい者となり得ます。受講者お一人お一人が自分事として、差別のない社会、すなわち「共生社会」の実現を目指してどう行動するべきかを考えていきましょう。

開講のねらい

いくらダイバーシティやインクルージョンが大切だと叫んでも、人は自分達とは異なる集団を排除しようとしします。なぜなのでしょう。多様な生き方を尊重し合える共生社会の実現に向けて、一緒に考えてみましょう。

担当コーディネーター

総合人間科学部 心理学科 教授
久田 満

講座 番号1243 サステナビリティ社会における企業の環境戦略

～法、政策、最前線の現場から

企業活動と環境法といえば、これまでは、規制基準へのコンプライアンス(法令遵守)が中心となっていました。たしかに、産業廃棄物の不法投棄や工場排水の基準違反が報道されると、その企業には、大きな社会的ダメージが発生します。このため、企業は、環境法令遵守に相当の注意を払ってきましたが、とすればそれは、工場・事業場における最低限度の取組みにとどまる傾向がありました。「必要以上の取組み」を、マイナスと評価する企業もあります。しかし、そのような発想しかできない企業を、投資家はマイナス評価するようになっていきます。企業は、地域社会、マーケット、そして、地球という、より大きな枠組み・コンテキストのなかで、自社の進むべき方向を考えなければならないのです。そうした企業の変容は、環境法政策のあり方にも影響を与えるでしょう。本講座においては、社会的存在である企業の環境活動のあり方を、環境コンプライアンス、ESG(環境・社会・ガバナンス)、SDGs(持続可能な発展目標)という枠組みのもとに位置づけます。そして、毎回の講義においては、それぞれの企業がどのような価値や理念を認識し、どのような意思決定体制を整備し、どのような措置を講じるべきなのかを具体的に検討します。ひとつの企業は、顧客、従業員、地域コミュニティ、同業他社、機関投資家、環境団体、マーケット、将来世代など、さまざまなアクターの「眼」のもとにあります。講義や討論を通じて、それぞれの企業にとっての方向性を探究しましょう。

開講のねらい

ESGやSDGsに配慮しない企業経営はありえなくなっています。しかし、どのようにすればよいのでしょうか。#1243では、講演や懇親会での情報交換を通じ、自社の現在と未来を考えるきっかけづくりをします。

担当コーディネーター

法学部 地球環境法学科 教授
北村 喜宣

講座 番号1244 マジョリティ側からダイバーシティを考える： 特権と立場の心理学

人は誰でもマジョリティ性とマイノリティ性のアイデンティティを持ち合わせていますが、マジョリティ性を多く持つ人は自分の特権(労なくして得る優位性)になかなか自分自身で気づくことができません。自分の特権に無自覚な人の多くは、社会的不平等とはマイノリティ側を不利な立場にするものだと思えたとしても、マジョリティ側を優遇するものだという捉え方はしません。真の意味でダイバーシティを実現するためには、今まで不問にされてきたマジョリティ側の特権や心理的特徴(態度・心理・行動・成長)に焦点を当て、特権を持つ側の責任と課題に迫る必要があります。内容としては、差別に「中立」は存在するか? 「平等(Equality)」と「公正(Equity)」の違いやマジョリティとマイノリティのアイデンティティ発達理論を取り上げます。

開講のねらい

これまでのダイバーシティ&インクルージョン研修では何か腑に落ちない、どこか他人事だと感じている人を対象に、マジョリティ特権を可視化することで企業文化そのものを変革する力を得ることをめざします。

担当コーディネーター

外国語学部 英語学科 教授
出口 真紀子

科学から
読み解く社会像

担当コーディネーター

特任教授

矢野 誠

1151 文理融合のエコシステム

科学技術が急速に進歩する現代社会をけん引するためには、さまざまな知見を統合し、新しい技術を築いていくことが不可欠です。さらに、新しい技術を取り入れ、生産の場を高度化していくためには、将来を見据え、多様なニーズに適切に対応しなくてはなりません。そのためにも、分野の垣根を超えた洞察力を育むことが不可欠です。それに関わらず現代の日本社会では、文系と理系の間の強固な壁や各分野間にある垣根が社会全体を硬直化させ、多様性が生む利益の実現を阻んでいます。このような現状を打破するためには、理科系と文科系の間の壁を打破し、新しいものの考え方を形成しなくてはなりません。本講義では、こうした視点にたって、文理が融合した社会を支えるエコシステムのあり方を検討し、実際に、文理の壁を乗り越えた社会で何が実現するかという問題を考えます。とくに、社会科学と生命科学の融合の可能性、データ・サイエンスの社会科学的意義、脱炭素社会形成に向けた新しい産業政策のあり方といった、具体的問題に基づいて、将来社会を切り開くうえで不可欠なソシオ・エコシステムのデザインを考えます。

開講のねらい

組織や社会の発展・成長を支えるエコシステムの形成には社会科学的素養が不可欠です。社会科学的素養とは、急激に進化する技術を組織や社会に取り込むには、といった現代人に必須の問題を受講者と一緒に考えます。

担当コーディネーター

理工学部 物質生命理工学科 教授

齊藤 玉緒

1152 現在・過去・未来をつなぐ生命科学概論

遺伝子組換えとゲノム編集、iPS細胞、ウイルス感染、PCR検査など、日々のニュースや報道の中でも生命科学に関わる内容が数多く取りあげられています。先端研究は驚くべきスピードで進歩しており、そこにはビジネスチャンスも数多く含まれていると考えられます。科学、特に生命科学の研究は一つの研究室の中に閉じられたものではなく、その成果は我々の日常生活に密接に繋がるものであり、またそこに国境はありません。このことは何を意味するか？私たちがこれからの社会のあり方に対してより正しい判断、意思決定をしていくためには、これらの日進月歩の研究内容を理解し、生命科学が私たちに何をもたらすのか、私たちの未来をどのように変えていくのかを考え、使いこなす力が求められています。本講座では、先端生命科学研究の内容の基礎を解説するとともに、その技術がもたらす社会の変革に対していかに判断し、意思決定をしていくのかを科学史に残る過去の事例をもとに考えます。

開講のねらい

純粋な知的好奇心から始まった生命科学は今や私たちの社会のあり方すらも変えようとしています。現代社会を生きる一人として社会と生命科学のつながりを理解し、自らが考え、意思決定をする学びを目指します。

担当コーディネーター

地球環境学研究科 地球環境学専攻 教授

安納 住子

1153 ビッグデータ利活用：基礎と応用

日本ではSociety 5.0の実現、また、新興国ではリープフロッグ型発展の実現に向けて、ビッグデータ利活用による社会課題の解決、新たな需要、イノベーション創出等が期待されています。本講座では、ビッグデータの定義・収集・可視化・AIを用いた分析方法、そして、AI・ビッグデータ利活用の事例について講述します。

開講のねらい

Society 5.0に求められる人材育成を目指します。

担当コーディネーター

理工学部 機能創造理工学科 教授

大槻 東巳

1251 先進技術と基礎科学

～意思決定の依拠を考察する～

現代社会のいたるところに先進技術が使われています。その背後には基礎科学の原理があり、それを理解することで、なぜある技術が実現され別の技術は実現できないのかわかることがあります。また、基礎科学の原理を知っておくことは重要な意思決定を行う際にも欠かせず、実際、参考文献に挙げた「Physics for Future Presidents」は非常に好評です。例えば、化石燃料がなぜこのように好まれるのかはエネルギーを計算することで簡単にわかります。また、光の速さが有限だと知っておくと、コンピュータの計算スピードや情報の伝達に原理的制限がかかることが自然とわかります。この授業では、先進技術の背後にある基礎科学を解説し、基礎科学の理解に基づき意思決定ができることを目指します。また、基礎科学の法則が制限する科学技術の限界、今後なくなる職業の予測、今後の科学技術の発展について、量子コンピュータや核融合などを念頭に考察します。

開講のねらい

この講座では、自然科学の基本法則を念頭に置きながら、量子コンピュータ、人工知能、遺伝子解析、分析化学などの最先端科学技術の話題を取り上げます。こうした内容を通じて科学的に物事を判断する態度を育みます。

科学から 読み解く社会像

1252 デジタル技術が拓くデータ駆動社会

新型コロナウイルス感染症への対応として、日本を含め世界各国で社会のデジタル化が進みました。本講義はポストコロナ社会でのさらなるデジタル技術の深化と定着、収集されたデータ応用の拡がりを見据えて、通信・メディア情報処理・AIなどの基礎技術、医療・医学データや微生物DNAビッグデータ解析データの社会応用などについて解説します。

開講のねらい

情報通信の世界的潮流と最先端技術を、複数の講師が交代でわかりやすく解説し、受講者のみなさんの疑問に答えることを目的とした講座です。テーマと内容は毎年変えていますので、連続しての受講も歓迎です。

1253 植物から社会は何を学ぶことができるのか： 食糧と環境の科学概論

現在地球上には79億人が生きていますが、2050年の世界人口は90億人に達すると推計されています。他方、私たちの活動はこの一世紀で爆発的に成長し、今や地球環境を脅かすに至っています。このような人類を取り巻く状況は、「CO₂を吸収し食糧を生み出す植物」と「食糧を消費しCO₂を放出する人類」の活動のバランスで捉えると、理解が明瞭になるように思われます。地球環境問題への取り組みという、COP、京都議定書、パリ協定等の言葉を思い浮かべる方が多いと思います。様々なメディアを通して地球の今が語られ、新たな取り組みが紹介されています。環境問題への取り組みについても、今すぐに来ること、遠い将来を見据えて来ること、様々な内容が同次元で語られています。しかし、実際の科学研究という視点から見たら何が見えてくるのでしょうか？ この講座では、食糧と環境という生命の維持存続に関するキーワードを中心に、各講演者がそれぞれの分野の今について概説します。遺伝子組換え植物がどのように作られるのか？ そしてどのようなメリットやデメリットがあるのか？ 植物を使った環境浄化とは？ 何がどこまで出来ているのか、出来そうなのか？ それぞれの立場で話をします。ニュースの裏にある事実を皆さんと共有したいと考えています。

開講のねらい

食糧と環境の問題は、多くの人が興味を持っています。実際に研究室やフィールドで植物を取り扱う科学研究者の視点から、世の中にある玉石混合の情報を選別してお伝えし、皆さんと意識共有を図りたいと考えています。

担当コーディネーター

理工学部 情報理工学科 准教授
矢入 郁子

担当コーディネーター

理工学部 物質生命理工学科 教授
神澤 信行
理工学部 物質生命理工学科 教授
藤原 誠

担当コーディネーター

法科大学院 教授
森下 哲朗

交渉のための 論理と批判

1161 交渉学入門： より良いネゴシエーターとなるための理論とスキル

私たちの生活は無数の交渉から成り立っています。より良い交渉ができることは、大きな強みとなりますし、逆に、交渉力がなければ、どれだけ良い知恵・アイデア・リソース等を持っていたとしても、それらを十分に活かすことは難しくなります。交渉には、取引先との価格や取引条件の交渉、トラブルを解決するための交渉、組織内での交渉、外交交渉、日常生活での交渉、代理人を介した交渉など、多様なものがありますが、どのような交渉に臨む場合であっても理解しておくべき基本、身に付けておくべきスキルがあります。本講座では、より良いネゴシエーターとなるために理解しておくべき基本的な概念・枠組みやその活用の仕方、交渉を通じて価値を創造し分配するための視点やスキル、より良い交渉に役立つコミュニケーションのためのポイント、交渉に影響を与える人的な要因と対処法、交渉のプロセス、難しい交渉に対処するための手掛かり、多数当事者交渉のポイント等を学びます。講座は、①理論・枠組み・スキルについての講義、②講義で学んだことを実践するロールプレイ、③参加者間のディスカッション等を組み合わせて講座を進めます。参加者の方々の主体的な参加が求められます。

開講のねらい

経験を重ねるだけで交渉が上達するものではありません。より良い交渉のための基本的なポイントを理解したうえで経験を積むことが必要です。本講座ではそうした基本的なポイントを学び、より良い交渉者を目指します。

教養講座

交渉のための 論理と批判

1162 質問力を磨く

～脱・思考停止～

人と人をつなぐ対話の扉を開くのは「質問力」です。新しいビジネスを生み出し、展開するのも「質問力」です。コロナ禍で先行きがより不透明な今こそ、新しい時代を切り開く「質問力」を磨き、対話を重ね、解決策をつかみに行きませんか。本講座で目指すのは「多様な人と協働できるリーダー」育成です。1人では解決できない問題を抱えている時こそ、質問力を使って対話を重ね、協働してくれる人を巻き込みましょう。言語や生活習慣の異なる人々と協働するには、自分にしか書けないこと（独創性）を誰にでもわかりやすく伝える力（論旨明解、適切な言葉遣い）が大切です。そのために自分以外の視点を身につけ、未知の世界があることを知ることから始めます。毎回、教材として読売新聞の当日朝刊を使います。世界のニュースを題材に、多様な仲間たちと「自分以外の誰かになりきって」質問し、視野を広げ、表現力を培っていきましょう。最終回では、皆さん自身の課題設定と解決策について発表してもらいます。脱・思考停止

開講のねらい

働き方が大きく変わっていきます。ジョブ型雇用への転換、副職解禁などはその証左でしょう。決められた線路を走れば安泰、ではないのです。新しい道を切り拓くには、今までの当たり前を疑い、自分で解を探しに行く力が必要です。

担当コーディネーター

特任教授

松本 美奈

担当コーディネーター

文学部 新聞学科 教授

音 好宏

1163 グローバルコミュニケーション・リテラシー

～グローバルメディアの変容と相互理解

グローバル化が進むなかで、私たちは、必然的に、言語や民族、文化、そして、政治経済的なシステムが異なる社会に暮らす人たちの相互理解を求められる機会が増えてきているのは確かです。本講義では、「グローバル化の進展」と「相互理解」をキーワードに、20世紀にグローバルなメディア・システムがどのような歴史的な経緯を経て生成・発展してきたかを踏まえつつ、近年のデジタル・メディアが普及・浸透するなかで、既存のメディア・システム、ジャーナリズムが直面するさまざまな問題や課題について、理論と現場の実例から検証します。また、グローバルなデジタル・メディアがシステム形成されつつあるなかで生じている課題と可能性について、日本からの国際発信や、西側先進諸国に拠点を置くメディア・コングロマリットの展開といった実例などを挙げながら、グローバル・メディアのありようについて分析・検証していきます。その上で、現代のグローバル・メディア、グローバル・コミュニケーションに求められるリテラシーについて考えます。講師には、国際的な報道現場で活躍してきたジャーナリストや、先進主要国のメディア戦略を研究してきたメディア研究者、実際にメディア・コンテンツのグローバル展開に携わってきたメディア事業経営者などに登壇いただき、理論的な視点と実務経験・実践的な視点を踏まえながら、講義を進める予定です。

開講のねらい

グローバル化、情報化が進む現代社会にあつて、政治・経済体制や文化等の違いを越えた相互理解には、コミュニケーション・リテラシー力が不可欠です。本講座では理論と実践の両面から学びます。

スペシャリスト養成講座

2101 人を動かす究極の交渉・コミュニケーション術： “納得”の導き方

「あれ、ちゃんと合意したのに相手がいつまでも合意内容へのコミットメントをしてくれない」「いいアイデアはあるのだけれど、どう説明したら周りの人たちからサポートを得られるのだろうか」「どうすれば、自分の言いたいことを相手に的確に伝えることができるだろうか」日々のお仕事や生活の中で、そのようなお悩みをお持ちではないでしょうか。また「自分は交渉やコミュニケーションが苦手だ」とお感じになっていて、お仕事や日常生活において交渉を極力避けようとしているかもしれません。交渉とは、結果を伴うコミュニケーションであり、「自分が欲しいものを手に入れるために行う」行為です。それは、つまり、『交渉を通じて、相手から、あるいは相手と共に、欲しいものを手に入れること』を意味します。本講座では、『交渉において自分が目指すゴールをいかに効率的に手に入れることができるか』、そして『いかにして自らの目的の達成を、当事者間の納得の下、行うことができるのか』というリーダーのための究極の交渉・コミュニケーション術を理論と実践を通して身につけることを目的としています。ケーススタディを通じて、より実践に近い交渉を実際に体験していただきつつ、行動心理学に基づく心理の理解と交渉テクニックを組み合わせた【明日からすぐに使うことが出来る“行動心理に基づいた交渉・コミュニケーション術”】を身につけていただきます。ぜひ本講座を通して、必ず結果を残すことが出来るネゴシエータへの変貌を遂げていただければ願っています。

開講のねらい

国内外で豊富な経験を持つ真の交渉プロフェッショナルから、より良い交渉者となるためには何が必要かを学びます。実務に役立つ知識とスキルを身につけ、交渉のエキスパートを目指したい方のための講座です。

担当コーディネーター

法科大学院 教授

森下 哲朗

担当コーディネーター

経済学部 経営学科 教授

西澤 茂

2201 国際会計

～IFRSの会計情報とグローバル企業の財務分析～

企業を取り巻く環境は、経営活動のグローバル化やIT事業、FinTech事業の発展などにより、大きく変動しています。この影響は、証券市場における企業の会計情報の開示にも及んでおり、その一例として、わが国主要企業では、会計基準を日本基準(J-GAAP)から、グローバル・スタンダードである国際会計基準(IFRS)へのシフトを加速させています。このような背景をふまえ、本コースは、前半では、わが国の主要企業によるJ-GAAPからIFRSへのシフトが、証券市場に与える影響について、日本の代表的なグローバル企業であるファストリテイリングを取り上げてその実態分析を行います。後半では、IT事業およびFinTech事業に焦点をあて、ゲスト・スピーカーによるグローバル企業の現状について紹介をして頂いた上で、グローバル企業のITとFinTech戦略について、受講者とのディスカッションを通じて、日本のグローバル企業の将来性について検討することを目的とします。

開講のねらい

本講座は、グローバル・ビジネスの意思決定において有用となる国際会計基準(IFRS)に基づく会計情報の特徴を理解することにより、グローバル人材の育成に貢献することを目的とします。

担当コーディネーター

地球環境学研究科 地球環境学専攻 教授

織 朱實

2202 コロナ以降の環境をめぐる企業のパラダイムシフト：

コロナ以降企業は変革に向けてどのように対応していくのか

現在、企業活動を継続していくためには「環境」への配慮は不可欠です。しかし、その対応もCSRからCSVへ、さらに持続可能性をコンセプトとしたSDGs、ESG、グローバルコンパクト、TCFDと様々です。こうした中で、企業はどのように変化する「環境」に対応していくのか、環境を巡る企業のパラダイムシフトのあり方とはどのようなものか、真剣に考えていかなければなくなっています。特に、コロナ以降新たに変化してきた価値観に企業としてどのように対応していくのか、海外の動向もふまえ、変化する環境に流されることなく、そこにポジティブな意義を見出していくためには、変化の潮流を正しくつかむことこそが今まさに企業に求められていると考えます。本講義では、その分野を代表する専門家による最新の情報を提供していたくともに、カードゲーム、NGOの方との対話、ワークショップなどを通じて、双方向のダイアログを図りながら企業のパラダイムシフトについて一緒に考えていきたいと思います。

開講のねらい

コロナ以降、企業と環境の関係は大きく変化しています。SDGs、サーキュラーエコノミー、グローバルコンパクト等どのような変化があるのか、各専門家による最新の情報とともに、カードゲームを行いながら実践的に企業のパラダイムシフトのあり方について考えます。

担当コーディネーター

特任教授

百瀬 公朗

2203 データサイエンスの実践

ーデータを消費するのではなく資産化するー

企業の経営層の約7割は、今後5年間でAIを拡張できないと、会社存亡の危機があると考えています。AIの新しい研究結果が頻繁にリリースされ、それがデータに大きく依存しているため、多くの企業はデータサイエンティストを雇ってデータを活用し、時流に乗ろうとしています。残念ながら、企業はデータサイエンティストとは何か、企業が成功するために何が必要か、そして彼らの仕事が企業やそのユーザーにどのように貢献できるかを誤解しているところがあります。このコースでは、まずデータサイエンティストとは何か、成功するために何が必要かを明確にし、次にさまざまな分野とバックグラウンドの専門家がサービス(データ駆動型戦略など)やプロダクト構築・展開の経験を講義いたします。自社のデータをいかに資産化し、ビジネスを変革していくために活かすかの知見を提供いたします。

開講のねらい

データサイエンスを多角的に理解するために、さまざまな分野とバックグラウンドのデータに関わる専門家がサービス(データ駆動型戦略など)やプロダクト構築・展開の経験を講義いたします。

担当コーディネーター

名誉教授

私市 正年

2204 歴史の理論と文明論

ーいまという「時代」と「社会」をいかに考えるか？ー

歴史が過去から現在に至る時間上にある現象だとすれば、私たちが生きている現在は、歴史の最前線に位置することになります。その長い歴史には、戦争があり、国家の形成・繁栄・滅亡があり、また科学技術や思想の発明・誕生もありました。それでは、私たちはいま、いかなる時代と社会に生きているのでしょうか。本講座では、今日の「時代」と「社会」の諸問題について、歴史の理論と文明論を軸として、具体例をとりあげながら考えていきます。まず、古代から中世を素材にして、歴史と文明の理論と、国家の生成・発展・滅亡の諸原因及び結果について検討します。つぎに、世界史とは何か、その問題点とは何かを考え、それに代わる新しい世界史の提示と、さらに最近のグローバル・ヒストリーという考え方も考察します。続いて「文明の衝突論」と「文明の接近」という二つの異なる文明をめぐる議論が提起する問題について意見を交わします。最後に歴史の理論と文明論についてナチズムの歴史と「9・11事件」という具体的素材を通じて議論をしながら考えてみたいと思います。

開講のねらい

開講のねらいは、私たちが生きている「いま」という時代と社会(日本と世界)が抱えている諸問題(国家と文明の繁栄と没落、民族と宗教の対立と共存、世界史とグローバル化など)を、歴史と文明の理論から考えることです。

SOPHIA PROFESSIONAL STUDIES

上智大学社会人プログラム 2022年度開講スケジュール

■ 教養講座(平日) 全6コマ 朝 8:30-10:00 昼 15:30-17:00 夜 18:30-20:00

全ての講義をオンラインで実施します

講座番号	コーディネーター	講座名	開講期	曜日	時間帯	第1回	第2回	第3回	第4回	第5回	第6回
1111	吉川 まみ	人間学：環境問題から考える“生きる意味”	春	金	夜	4/22	5/13	5/27	6/10	6/24	7/8
1121	長尾 直茂	伝統文化から見た日本		木	夜	5/19	5/26	6/2	6/9	6/16	6/23
1122	飯島 真里子	グローバル・ヒストリーズ：世界のつながりを紐解く歴史観		金	夜	4/22	5/13	5/27	6/10	6/24	7/15
1132	まくどなと あん	21世紀における「グローバリズム」と持続可能性：日本列島におけるレジリエンス及びダイナミックな順応的管理の可能性を探る		木	夜	6/9	6/16	6/23	6/30	7/7	7/14
1141	西口 尚宏	SDGsとイノベーション ～SDGsをイノベーションを興しながら達成する日本企業向けの実践方法～		月	夜	4/25	5/9	5/23	6/6	6/20	7/4
1142	横山 恭子	病とともに「生きる」を支える		水	夜	4/20	5/11	5/25	6/8	6/22	7/6
1143	久田 満	プロカウンセラーと学ぶ傾聴力ー部下のため、部署のため、そして会社全体のために		金	夜	4/22	5/13	5/27	6/10	6/24	7/15
1152	齊藤 玉緒	現在・過去・未来をつなぐ生命科学概論		木	夜	4/28	5/12	5/26	6/9	6/23	7/7
1162	松本 美奈	質問力を磨く ～脱・思考停止～		木	昼	6/16	6/23	6/30	7/7	7/14	7/21
1163	音 好宏	グローバルコミュニケーション・リテラシー～グローバルメディアの変容と相互理解		水	朝	6/15	6/22	6/29	7/6	7/13	7/20
1211	永井 敦子/山崎 瑛莉	アフリカの智に学ぶ ～サハラ以南アフリカの慣習や文化から～	秋	月	夜	10/17	10/24	11/7	11/21	12/5	12/19
1213	大橋 容一郎	SDGsとグローバル化の哲学		水	夜	9/28	10/5	10/12	10/19	11/9	11/16
1214	寺田 俊郎	仕事に生かす哲学的対話ー深く豊かな思考のために		水	夜	12/7	12/14	12/21	1/11	1/18	1/25
1221	川村 信三	世界最小国バチカンから世界最大級の影響力を読み解く～教皇庁の歴史と外交から～		金	夜	10/7	10/21	11/11	11/25	12/9	12/23
1231	ユー・アンジェラ	越境する日本文学と美術		水	昼	9/28	10/12	10/26	11/9	11/30	12/14
1232	矢澤 達宏	アフリカのいまを知る ～ステレオタイプを越えて～		金	夜	9/30	10/14	10/28	11/18	12/2	12/16
1233	国枝 智樹	グローバルリスクと戦略的コミュニケーション		火	夜	9/27	10/4	10/11	10/18	10/25	11/8
1234	都留 康子	海と安全保障		火	夜	10/11	10/18	10/25	11/8	11/22	12/6
1241	三浦 まり	教養としてのジェンダー：国際潮流から考える「ビジネスとジェンダー」		月	夜	10/3	10/17	10/31	11/14	11/28	12/12
1242	久田 満	偏見と差別の心理学ー共生社会の実現を目指して		金	夜	10/7	10/21	11/11	11/25	12/9	12/23
1243	北村 喜宣	サステナビリティ社会における企業の環境戦略ー法、政策、最前線の現場から		月	夜	12/5	12/19	1/16	1/30	2/13	2/27
1251	大槻 東巳	先進技術と基礎科学ー意思決定の依拠を考察する～		金	夜	9/30	10/14	10/28	11/11	11/25	12/9
1252	矢入 郁子	デジタル技術が拓くデータ駆動社会		月	夜	11/14	11/21	11/28	12/5	12/12	12/19
1253	神澤 信行/藤原 誠	植物から社会は何を学ぶことができるのか：食糧と環境の科学概論		金	夜	9/30	10/14	10/28	11/11	11/25	12/9

■ 教養講座(土曜) 全6コマ A ①10:00-11:30 ②12:30-14:00 ③14:15-15:45 B ①10:30-12:00 ②13:00-14:30 ③14:45-16:15

講座番号	コーディネーター	講座名	開講期	曜日	時間帯	第1回	第2回	第3回	第4回	第5回	第6回
1131	私市 正年	イスラームをどう理解するか？ー原理・原則と多様性を考える	春	土	A	4/23①	4/23②	5/7①	5/7②	5/21①	5/21②
1151	矢野 誠	文理融合のエコシステム		土	A	5/21①	5/21②	5/21③	6/4①	6/4②	6/4③
1153	安納 住子	ビッグデータ活用：基礎と応用		土	B	4/16①	4/16②	4/16③	4/23①	4/23②	4/23③
1161	森下 哲朗	交渉学入門：より良いネゴシエーターとなるための理論とスキル		土	A	4/16①	4/16②	4/16③	4/23①	4/23②	4/23③
1212	鈴木 守	身体知の実践ー～ソマティックな人間観に依拠して～	秋	土	A	10/29①	10/29②	10/29③	11/5①	11/5②	11/5③
1222	山岡 三治	グローバル組織が直面する文化摩擦とその克服ーローマ・カトリック教会の世界伝道の歴史に学ぶ～		土	A	10/8①	10/8②	10/8③	10/29①	10/29②	10/29③
1223	寺田 勇文	日本で暮らす東南アジアの人々：共生の道筋を考える		土	A	10/8①	10/8②	10/8③	10/22①	10/22②	10/22③
1244	出口 真紀子	マジョリティ側からダイバーシティを考える：特権と立場の心理学		土	A	11/5①	11/5②	11/5③	11/19①	11/19②	11/19③

■ スペシャリスト養成講座 全8コマ (平日) 夜 18:30-20:00 (土曜) A ①10:00-11:30 ②12:30-14:00 ③14:15-15:45

講座番号	コーディネーター	講座名	開講期	曜日	時間帯	第1回	第2回	第3回	第4回	第5回	第6回	第7回	第8回
2101	森下 哲朗	人を動かす究極の交渉・コミュニケーション術：「納得」の導き方	春	土	A	6/4①	6/4②	6/4③	6/11①	6/11②	6/11③	6/18①	6/18②
2201	西澤 茂	国際会計ーIFRSの会計情報とグローバル企業の財務分析～	秋	木	夜	9/29	10/6	10/13	10/20	10/27	11/10	11/17	11/24
2202	織 朱實	コロナ以降の環境をめぐる企業のパラダイムシフト：コロナ以降企業は変革に向けてどのように対応していくのか		土	A	10/8①	10/8②	10/15①	10/15②	10/22①	10/22②	10/29①	10/29②
2203	百瀬 公朗	データサイエンスの実践ーデータを消費するのではなく資産化するー		月	夜	10/3	10/17	10/31	11/14	11/28	12/12	1/16	1/30
2204	私市 正年	歴史の理論と文明論ーいまという「時代」と「社会」をいかに考えるか？ー		木	夜	10/20	10/27	11/10	11/17	11/24	12/1	12/8	12/15

※2022年4月時点での開講スケジュールとなります。今後、やむをえず変更になる場合があります。

プロフェッショナル・スタディーズ Webサイト
[https:// www.sophia-professionalstudies.jp](https://www.sophia-professionalstudies.jp)



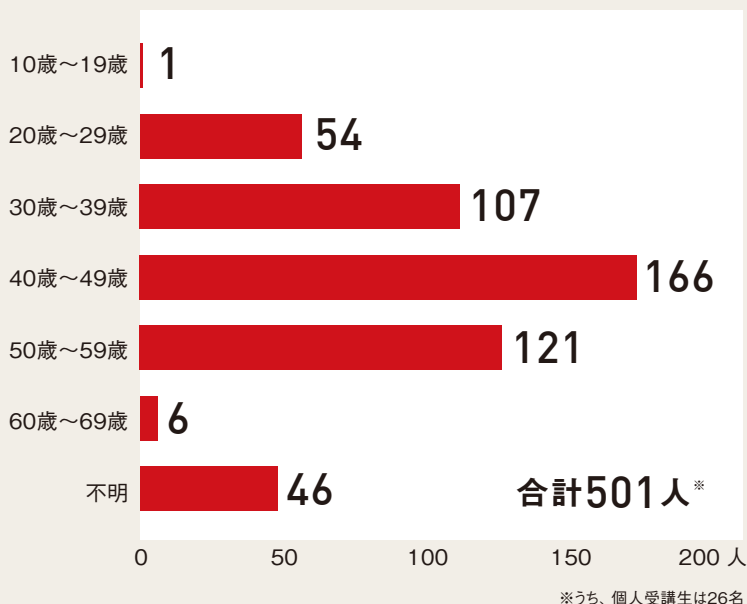
ARCHIVES

2021年度開講講座

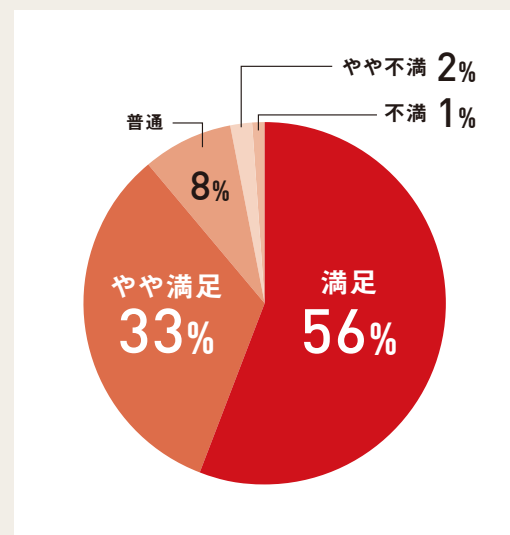
Feedback from students

受講者アンケート(2021年度受講者)

受講者内訳



講座を受講していかがでしたか？



受講者の声

教養になるととても良い内容でした。
また各グループでもディスカッションできる場があり、
他業種の方の考え方やお話が伺えてよかったです。

自分の専門外での講座のほうが
学びが多いことを再認識しました。
視野を広げるためのツールにしたいと思います。

社会人が学び直す場・新たな知識習得の講座としては、
レベル感も内容もふさわしいものになっていると思います。
今後も機会があり、関心のある講座があれば、是非また受講したいと思いました。

何となく感じていた課題について、
世界的な視点や法的な視点など様々な角度で
講義をいただき、大変参考になりました。
自社での研修や女性活躍施策へ反映して
いきたいと思います。

普段とは違う環境で違う視点から
物事を見ることができる機会として
是非同僚に勧めたいと思います。

2021年度講座紹介

2021年度開講講座の一部を受講者の声とともにご紹介します。

2021年度は教養講座30講座、スペシャリスト養成講座6講座、合計36講座を開講。

※コーディネーター、講師の肩書きは2021年4月時点のものを掲載

教養講座

人間の本质と 倫理、哲学

1121 日本文化のダイバーシティ

昨今ちまたでは「日本らしい」という言葉をたびたび耳にします。その言葉は時に、日本には古来から特有のすぐれた文化があり、それを忘れてはならないという危機意識をにじませる調子であったりしますが、その問題意識は果たして正しいのでしょうか。実のところ日本文化は度量が広く、これまで多くの外来の文化や思潮を取り込みながら豊かな自国の文化を形成して来たのであり、その意味で昔から多種多様な顔をもっていたのではないのでしょうか。つまり、「日本らしい」ということは、多様な文化を有するという意味なのではないのでしょうか。この講座では、これまで日本文化が吸収して来たものを具体的に例示しながら、日本文化の多様性を考えようと思います。

各回の講義テーマ

- 第1回:日本文化の特質
- 第2回:日本思想の背後にあるもの—儒教との関わり
- 第3回:日本思想の華—武士道とは
- 第4回:日本人の美意識—南画の美
- 第5回:日本文化に見る中国の影響—日本漢詩
- 第6回:日本らしさを考える—総括として

担当コーディネーター

文学部 国文学科 教授

長尾 直茂



講師陣

■長尾 直茂 (上智大学文学部国文学科教授)

受講者の声

リベラルアーツを学び直す重要性は、ビジネスパーソンにとってますます高まっていると思いますので、文化の多様性を理解した上で国際舞台で活躍するための学びの場として本講座を推奨したいと考えております。

日本文化がどのように形成されてきたかを知ることは、将来の変化を予測するための重要なインプットになります。また、自身の文化的バックグラウンドを理解しておくことはグローバル社会での自身のアイデンティティ確立にも役立つと考えています。今回受講させていただいた講義は、これらの点について非常に多くの示唆や気づきを与えてくれるものでした。

歴史、宗教に学ぶ 世界の俯瞰

1221 世界最小国バチカンから

世界最大級の影響力を読み解く

～教皇庁の歴史と外交から～

世界最小国家バチカンの国際的役割について、日本においてバチカンをも最もよく知る講師陣を迎えて考察する。歴代教皇の役割、現代国際政治においてなぜバチカンが影響力を持ちうるのか。また、教皇を頂点とするカトリック教会と現代世界についても考える。昨年の講義では、2019年の教皇来日以後高まりを見せる教皇フランシスコの役割や、現代史政治史上の役割、とくにアメリカ大統領選挙におよぼす米国カトリックの影響などをみた。

各回の講義テーマ

- 第1回:現代バチカン理解の導入
- 第2回:文明論的バチカン理解①
- 第3回:文明論的バチカン理解②
- 第4回:バチカン:教会法学者の観点から
- 第5回:近代史のなかの教皇とバチカン①
- 第6回:近代史のなかの教皇とバチカン②

担当コーディネーター

文学部 史学科 教授

川村 信三



講師陣

■菅原 裕二 (教皇庁立グレゴリアナ大学法学部教授)
■上野 景文 (文明評論家、元駐バチカン日本大使)
■松本 佐保 (日本大学准教授)
■川村 信三 (上智大学文学部史学科教授)

受講者の声

米国駐在時に、「海外でビジネスをするにあたり、宗教について学ぶことが必要不可欠」と実感しており、そうした意味で本講座の内容はビジネスマンが身につけるべき教養だと思う。

今後も報道記事を読む際には、今回学んだ考え方、捉え方を参考に深く理解したいと思います。先生方の取組・成果等にも引き続き興味を持ち交流させていただきたいと考えています。

スペシャリスト養成講座

講座番号 2201 国際会計

～IFRSの会計情報とグローバル企業の財務分析～

企業を取り巻く環境は、経営活動のグローバル化やIT事業、FinTech事業の発展などにより、大きく変動しています。この影響は、証券市場における企業の会計情報の開示にも及んでおり、その一例として、わが国主要企業では、会計基準を日本基準(J-GAAP)から、グローバル・スタンダードである国際会計基準(IFRS)へのシフトを加速させています。このような背景をふまえ、本コースは、前半では、わが国の主要企業によるJ-GAAPからIFRSへのシフトが、証券市場に与える影響について、日本の代表的なグローバル企業であるファストリテイリングを取り上げてその実態分析を行います。後半では、IT事業およびFinTech事業に焦点を当て、ゲスト・スピーカーによるグローバル企業の現状について紹介をして頂いた上で、グローバル企業のITとFinTech戦略について、受講者とのディスカッションを通じて、日本のグローバル企業の将来性について検討することを目的とします。

各回の講義テーマ

- 第1回:グローバル企業におけるIFRS適用の意義
- 第2回:グローバル企業の経営戦略と財務戦略
- 第3回:日本会計基準(J-GAAP)からIFRSへのシフトの影響
- 第4回:グローバル企業のIT戦略とFin Tech戦略①
- 第5回:グローバル企業のFinTech事業の将来性
- 第6回:グローバル企業の財務戦略
- 第7回:グローバル企業のIT戦略とFin Tech戦略②
- 第8回:グローバル企業の成長戦略と将来性分析

受講者の声

・受講者がこれからより一層社会で活躍してもらいたいという気持ちが講義を通じて伝わってきた。
・専門的な会計知識だけでなく、会社や社会で活躍するために必要な見方・考え方を学ぶことが出来た。

国際会計に関わる講座だったが、直近の経済課題などを交えて解説いただき、即使える考え、知識が多かった。教養としての知識蓄積にもつながり、非常に有意義な学びとなった。

担当コーディネーター

経済学部 経営学科 教授

西澤 茂



講師陣

- 大西 秀重(元ファストリテイリング社CFO、現株式会社アバーゼンスCEO)
- 松本 大(マネックスグループ株式会社CEO)
- 西澤 茂(上智大学経済学部経営学科教授)

スペシャルトーク

各分野の専門家や著名人を招き、グローバル経済の動向、国際関係の行方など、グローバル関連の課題を紐解きます。

第1回「コロナ対応策と倫理学」

マギル大学(カナダ)哲学部カナダ特別教授 広瀬 巖

第2回「フランス料理の歴史と日本の食文化」

オテル・ドゥ・ミクニオーナーシェフ 三國 清三

第3回「報道現場で女性が働くということ」

フリーキャスター 安藤 優子

第4回「市場の質理論からみた、経済とリーダーシップの新しいあり方」

独立行政法人経済産業研究所理事長 矢野 誠

第5回「企業は誰のため、何のためにあるのか？」

一般社団法人グローバル・コンパクト・ネットワーク・ジャパン代表理事 有馬 利男

第6回「SDGsの現在地とこれから：「仕組み」レベルでの変革を」

国連広報センター長 根本 かおる



第1回登壇
広瀬 巖氏 著書



第6回登壇
国連広報センター長 根本 かおる氏

【アドバイザーパートナー企業一覧】（20社／2022年4月時点）



あいおいニッセイ同和損害保険株式会社 | 株式会社あおぞら銀行 | アサヒグループホールディングス株式会社
 アビームコンサルティング株式会社 | エーオンジャパン株式会社 | 兼松エレクトロニクス株式会社 | 住友林業株式会社
 株式会社セブン&アイ・ホールディングス | 第一生命保険株式会社 | 東海旅客鉄道株式会社 | 株式会社東洋経済新報社 | 日本航空株式会社
 株式会社フィリップス・ジャパン | 株式会社フジタ | 丸紅株式会社 | 三井住友信託銀行株式会社 | 三菱UFJ信託銀行株式会社 | 株式会社明治 | 他

プロフェッショナル・スタディーズWebサイトも
併せてご利用ください。

プロフェッショナル・スタディーズ Webサイト

<https://www.sophia-professionalstudies.jp>



講座はWebサイトからお申し込みいただけます。

TOP

講座紹介

ご希望の講座をタップまたはクリック（講座予約サイトへリンクします）

※企業会員の方は企業担当者を通じてお申し込みください。



上智大学
SOPHIA UNIVERSITY

問い合わせ先

プロフェッショナル・スタディーズ事務局

TEL: 03-3238-3552

E-MAIL: 企業会員の方 prostudies-co@sophia.ac.jp

個人会員の方 web_kookai-co@sophia.ac.jp

※ 講座内容や担当講師、開講時間等に変更の可能性があります。